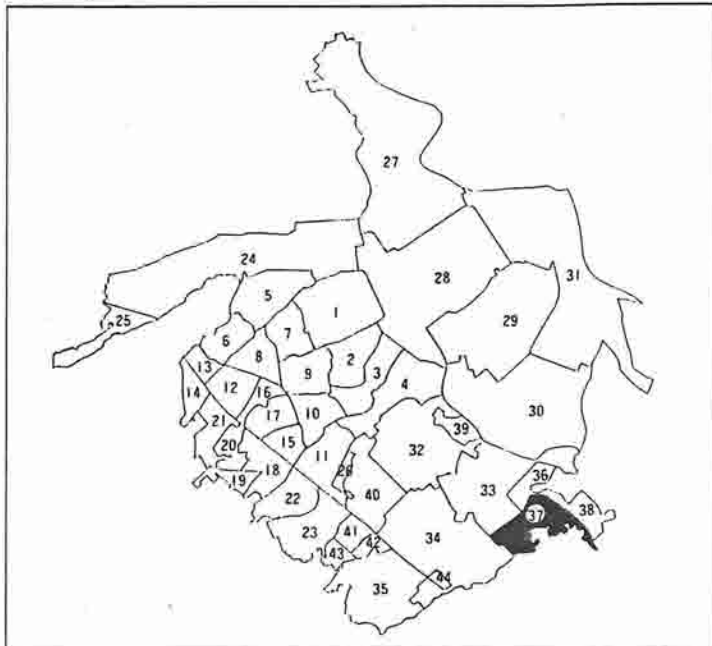


・概況

水谷東2丁目町会は、富士見市の南東部に位置し、南側は柳瀬川に面し、西側は水谷東小学校、前沼公園を中心とした水田地帯（氾濫平野）で形成されている。この地域は昭和34年以前は家屋（14棟）も少なく、水田として利用されてきた。しかし、水田が盛土されて住宅地となり、昭和35年代には急速に住宅が建設され、狭隘な生活道路をはさんで密集した市街を形成している。水害は、水害履歴から台風に伴う大雨による柳瀬川の増水、灌漑用水路や下水路からの溢水のため、家屋浸水、水田・畑の冠水被害を受ける内水災害が予想される。地盤は、10m以上の沖積層で形成された軟弱地盤である。したがって、震度6クラスの地震が発生すると、木造建物の約33%が破損し、出火、延焼の危険性が高いと予想される。また、柳瀬川沿いの一部で液状化が予想される。

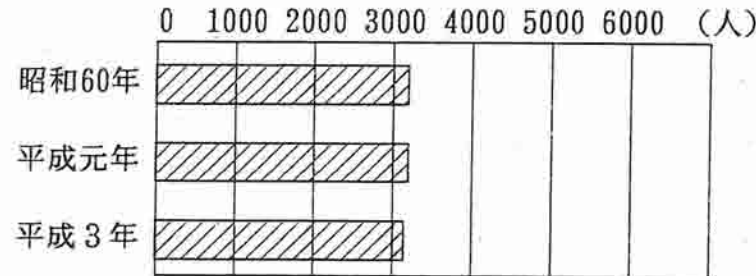
・位置図



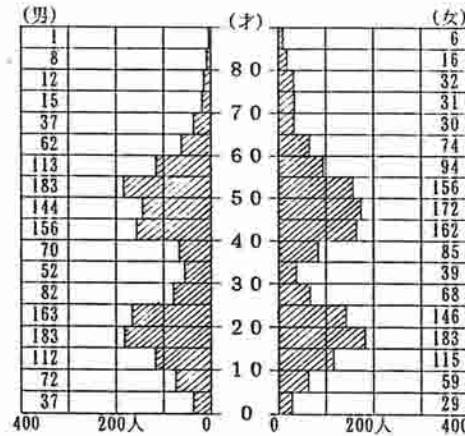
1. 基礎指標

・面積	0.320 km ²
・人口(平成3年10月1日現在) 男	1,511人
女	1,505人
計	3,016人
・人口密度	9,425.0人/km ²
・寝たきり老人数	0人
・ひとり暮らし老人数	18人
・世帯数	961世帯

・人口推移

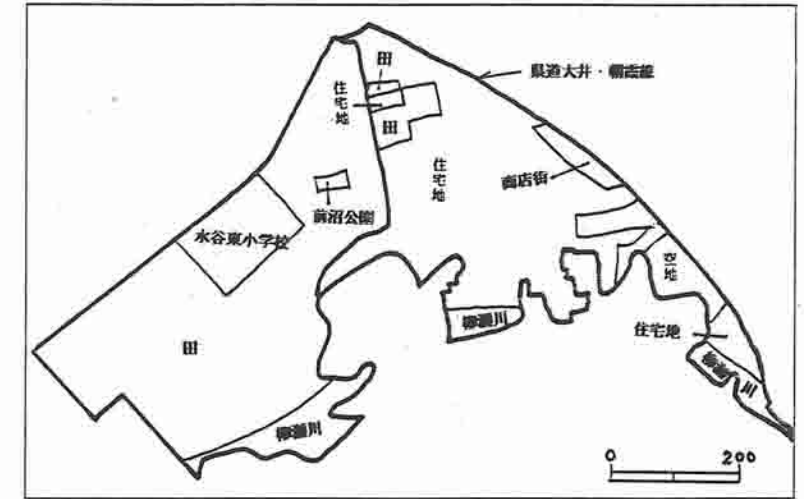


・年齢別人口 (平成3年)

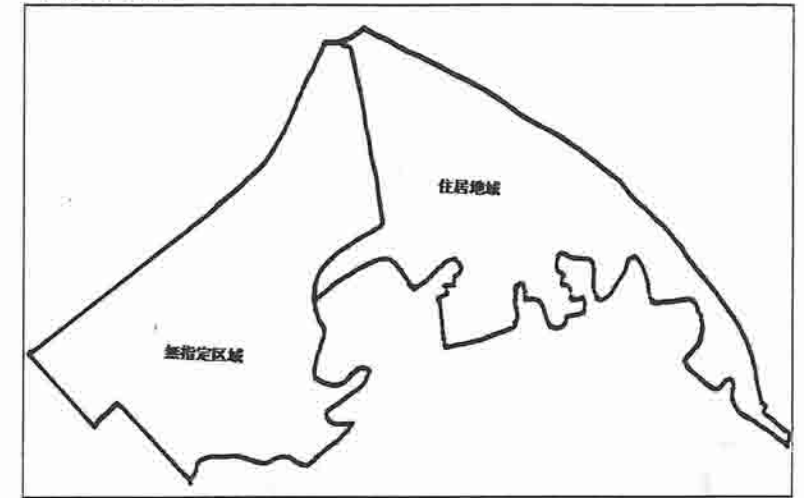


・商住工混在率住居系	88.1%
店舗系	8.9%
工業系	3.0%

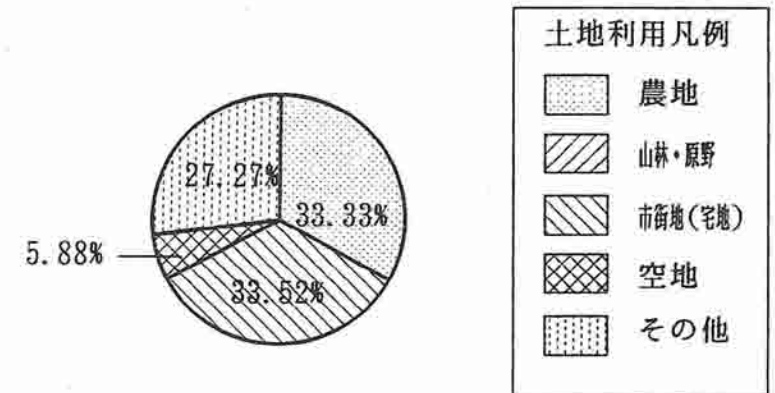
・町会現況図



・用途地域図



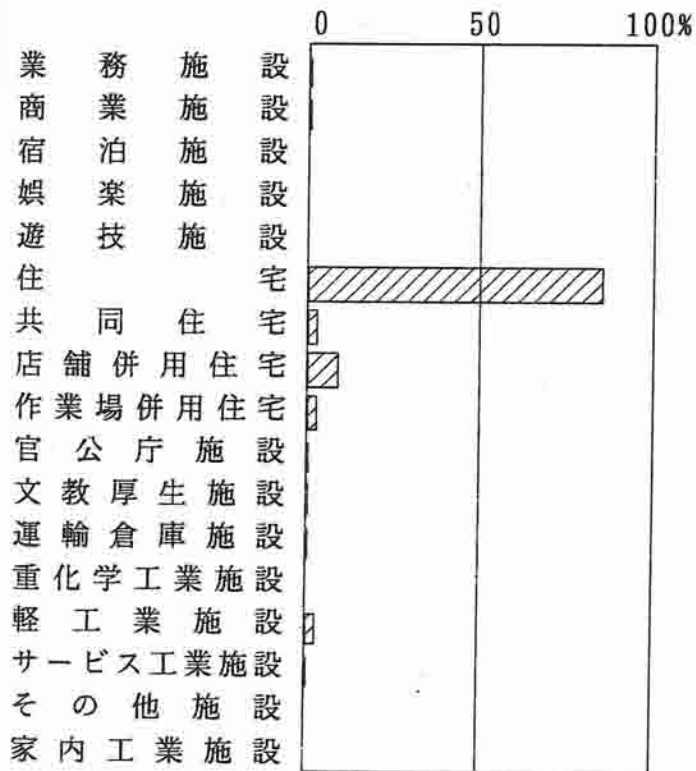
・土地利用現況



2. 建物指標

・建物棟数	1,162棟
木造建物	1,115棟
非木造建物	47棟
・建物面積	34,835.71㎡
木造建物	31,323.05㎡
非木造建物	3,512.66㎡
※建物面積は1階の面積	
・住宅率	85.2%
・木造率	96.0% (1,115棟)
・昭和34年以前の木造家屋実棟数	14棟
・同上率	1.3%
・建物階層別現況(木造建物)	
1階	110棟 9.9%
2階以上	1,005棟 90.2%

・建物用途別現況



3. 道路空地指標

・道路率	46本	143.8本/㎢
・幹線道路率	2本	6.2本/㎢
・公共空地面積	19,574.5㎡	
・公共空地率	6.1%	
・1人あたり公共空地	6.5㎡/人	
・公共空地内容(*指定避難所)		
名称	面積	
1. 高校	0㎡	
2. 中学校	0㎡	
3. 水谷東小学校*	18,284.0㎡	
4. 公園	0㎡	
5. 水谷東公民館*	1,290.5㎡	

4. 消防指標

所轄消防署	入間東部地区消防組合富士見消防署 応援協定 所沢市、川越地区消防組合、 新座市、志木市各消防本部
・消火栓本数	21本
・1消火栓あたり世帯数	45.8世帯/本
・消防水利貯水施設数	4 (0) か所 ()内は容量40トン以上の施設数
・消防団機械器具置場	0

5. 危険物指標

・給油取扱所	0か所
・一般取扱所	1か所
・屋内・屋外(タンク)貯蔵所	0か所
・地下タンク貯蔵所	0か所

6. 既往災害

・家屋浸水被害	床下	床上	道路冠水
昭和56年10月(氾濫24号)	6棟	0棟	か所
” 57年 9月(氾濫18号)	345棟	31棟	か所
平成元年 8月(大雨)	4棟	0棟	か所
” 2年11月(氾濫28号)	8棟	0棟	7か所
” 3年 9月(氾濫18号)	78棟	6棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
・崖崩れ被害()年～()年			0件
・火災出火件数()年～()年			0件
・1923関東大地震被害			
家屋全壊			0戸
家屋半壊			0戸
被害率			0%

7. 防災基盤施設

消防	0か所	
病院	0か所	
医院	2か所	富士見クリニック, 下山歯科
休日診療所	0か所	
警察	0か所	警察署 派出所
水防施設 その他の施設	9か所	制水扉 No.1～No.5 排水ポンプ No.1～No.4
・自主防災組織(数)	水谷東2丁目自衛消防隊 1	
・自主防災組織参加世帯率	99.4%	
・飲用井戸本数	0本	

8. 危険度評価

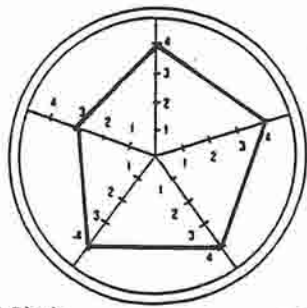
・内水災害危険度	4ランク
・外水災害危険度	0ランク
・土砂災害危険度	0ランク
・木造建物被害危険度	4ランク
・木造建物出火危険度	4ランク
・木造建物延焼危険度	4ランク

地盤	地盤の地震動危険度	4ランク
危険度	液状化危険度	3ランク

※ 危険度評価ランク

危険度	無	微	小	中	大
ランク	0	1	2	3	4

内水災害危険度



液状化危険度

木造建物被害危険度

木造建物延焼危険度

木造建物出火危険度

9. 地盤条件

地盤は、10m以上の軟らかい沖積層（氾濫平野）の軟弱地盤で、震度6（+）（烈震の強い方）の地震が予想される。

10. 問題点の整理

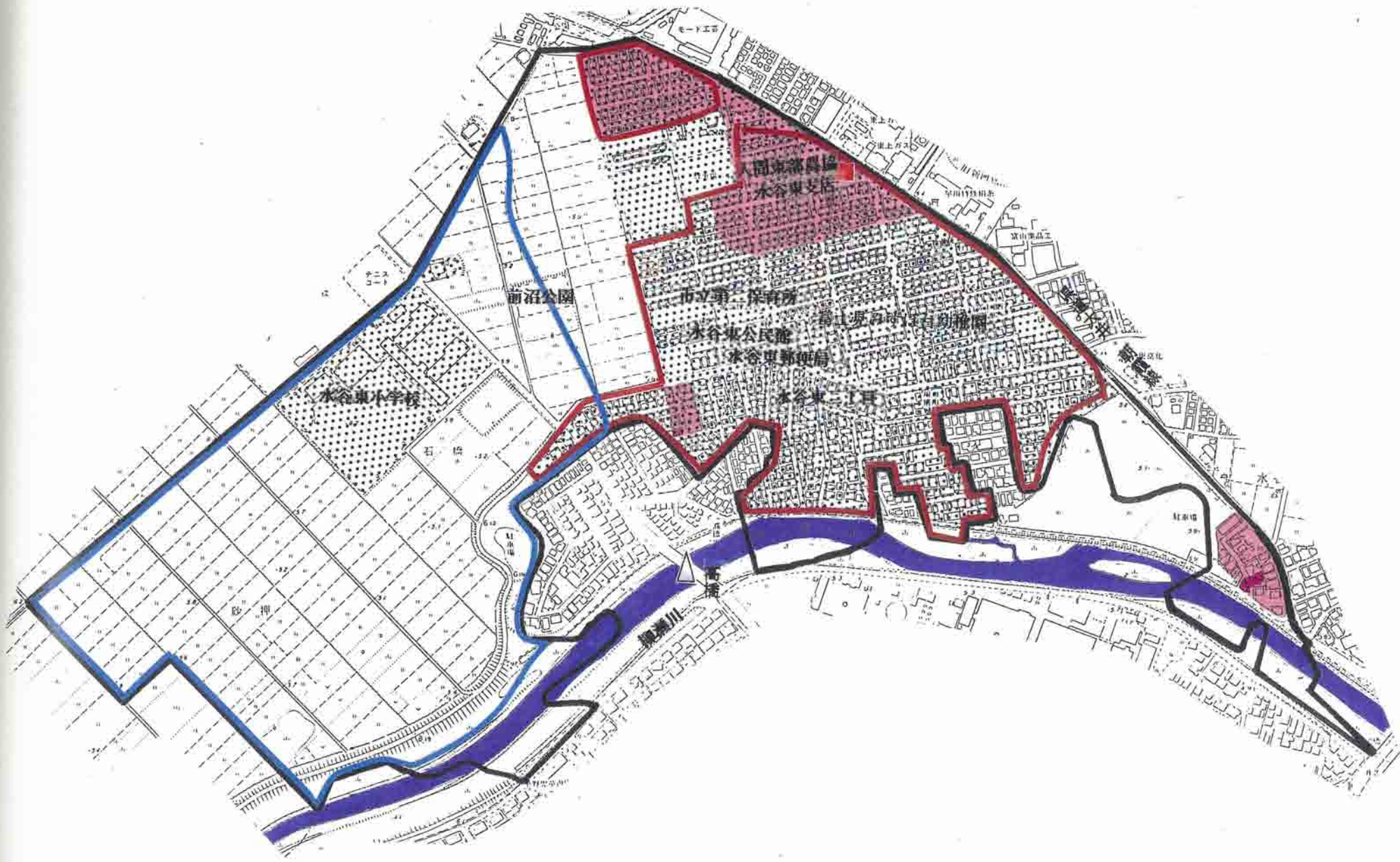
災害発生要因		災害抑止要因	
1. 内水災害	柳瀬川の増水に伴う内水の滞留。灌漑用水路からの溢水。	1. 水防能力	水防施設は、柳瀬川沿いに、制水扉が5箇所、そして、パラペットを築造して越流を防止している。
2. 外水災害	低い。	2. 防災組織	水谷東2丁目自衛消防隊が組織されている。
3. 倒壊危険	地盤条件が悪いため、木造の倒壊について注意を要する。	3. 消防能力	建物棟数と比較して、消火栓、消防水利貯水施設が少ない。生活道路が全体的に狭く、消防活動を妨げる恐れがある。
4. 出火危険	出火の危険性が高い。	4. 防火能力	商店街の建物の一部が不燃化されているが、木造家屋密集地域の防火能力は低い。
5. 延焼危険	不燃領域率は50%以下と低いため、延焼の危険性が高い。	5. 避難収容力	指定避難所は、町会内に水谷東小学校、水谷東公民館がある。水谷中学校は、他の町会と共用する。1人あたりの公共空地は6.5㎡/人と見込まれ、収容力は十分と思われる。
6. その他の災害	地盤条件が悪いので志木市柏町2丁目の西側に隣接する一部地域で液状化が予想される。		

11. 解決の方向性

水害予防対策として、制水扉、自動排水ポンプ、パラペットを柳瀬川沿いに設置している。都市型水害の防止のため、新河岸川流域総合治水対策事業（県）と調整しながら、住宅地内の雨水の流水抑制施設や住宅のかさあげを促進するための補助金制度などの対策が望まれる。避難可能な道路は、商店街、住宅地を通過しているが幅員が狭いため拡幅することや、路上駐車排除を行うなどの対策が必要である。また、これら商店街にある自動販売機の転倒、住宅地のブロック塀の倒壊による道路の狭隘化を防止するため、これら危険物の転倒、倒壊防止対策の指導が望まれる。

※ 想定震度 6（+）（烈震（強））

防災現況図A(災害発生要因)



凡 例	
●	給 油 取 扱 所
■	一 般 取 扱 所
⚠	危険物屋内タンク貯蔵所
⚠	危険物屋外タンク貯蔵所
⚠	危険物地下タンク貯蔵所
▲	L P G 充 填 所
△	橋 梁
▽	横 断 歩 道 橋
△	立 体 交 差
■	木造家屋密集地域
—	河 川 ・ 水 面
⚠	急傾斜地崩壊危険区域
●	盛 土
□	浅い谷・低地(谷底平野)

既往浸水域(平成3年台風18号)	
■	田の浸水地域
■	田の被害区域
■	畑の被害区域
■	床上浸水地域
■	床下浸水地域



防災現況図B(災害抑止要因)



凡 例	
	消防署・出張所
	消防団機械器具置場
	水防施設
	防火水槽・プール
	警察署・派出所・駐在所
	市役所・出張所・公民館
	防災行政用無線子局位置
	コミュニティー・集会施設
	保健所・保健センター
	病 院
	医 院
	休日診療所
	指定避難所
	公 園
	河 川・水面
	避難可能な道路
	幅員12m以上の道路
	幅員12m以上の道路 (計画中)
	学 校 (小・中・高)
	空地・水田・畑

0 50 100 200 300 400 500m

